

ホームページ掲載内容

研究課題名: 頭頸部癌における3D-CRTとIMRTの比較

研究責任者: 浦安病院放射線科 齋藤アンネ優子

研究分担者: 浦安病院放射線科 池之内穰

浦安病院放射線科 井上達也

研究の意義と目的:

頸部に対する放射線治療は、解剖学的に複雑な部位を対象としたものです。腫瘍に十分な照射を行おうとすると、口腔内粘膜や唾液腺といった正常臓器の線量も高くなってしまい、これをコントロールするのは容易ではありません。

1990年代半ばから行われ始めてきた新しい治療法である強度変調放射線治療(IMRT)は従来の三次元放射線治療(3D-CRT)と比べ、ピンポイントのような治療が可能となり、正常臓器の線量コントロールが比較的容易なものです。これまでも3D-CRTとIMRTとで様々な比較検討が行われ、治療成績では統計学的な差は無いものの、頸部への照射の際に起こりうる口腔内乾燥など有害事象(副作用)に関しては、IMRTの方が少ないとの報告もあります。

当院では2016年より放射線治療装置であるTomotherapy (Accuray社)が新たに導入され、IMRTが開始されました。頭頸部癌(上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌)に対してもIMRTを開始しています。この研究では当院の頭頸部癌の患者さんにおいて、3D-CRTとIMRTとで治療成績や有害事象の比較検討を行います。

具体的には過去に当院で頭頸部癌に対して3D-CRTを行った患者さんと、IMRTを行なった患者さんの治療データを用いて、その治療成績、粘膜炎、口腔内乾燥、味覚障害、皮膚炎などの有害事象の重症度を比較します。この研究結果を、今後の頭頸部癌の治療方針決定に役立てたいと考えております。

観察研究の方法:

本研究の対象となる患者さんは、2015年7月3日から承認日までに当院で頭頸部癌に対して放射線治療を受けられたおよそ50名の患者さんです。

利用させていただく情報は下記です。

診療録の記載情報をもとに、治療成績と有害事象(粘膜炎、口腔内乾燥、味覚障害、皮膚炎)を評価させていただきます。

研究実施期間: 承認日 ~ 西暦2020年3月31日

被験者の保護:

本研究に関係するすべての研究者は、ヘルシンキ宣言(2013年10月 WMA フォルタレザ総会[ブラジル]で修正版)及び人を対象とする医学系研究に関する倫理指針(2017年2月28日)に従って本研究を実施します。

個人情報の保護:

患者さんの情報は、個人を特定できる情報とは切り離した上で使用します。
また、研究成果を学会や学術雑誌で発表しますが、患者さん個人を特定できる個人情報は含みません。

利益相反について:

本研究は、放射線科の研究費によって実施しておりますので、外部の企業等からの資金の提供は受けておらず、研究者が企業等から独立して計画し実施するものです。従いまして、研究結果および解析等に影響を及ぼすことはありません。また、本研究の責任医師および分担医師には開示すべき利益相反はありません。

本研究の対象となる患者さんで、ご自身の情報は利用しないでほしい等のご要望がございましたら、大変お手数ですが下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先:

順天堂大学医学部附属浦安病院 放射線科

電話:047-353-3111 (内線)3267

研究責任者:齋藤アンネ優子